

7

東京に住み、働き、かかわる全ての皆さまへ



この報告書は、主にサービスを提供する民間事業者の皆さまに向けた内容となっておりますが、東京に住み、働き、かかわる全ての皆さまも、**年齢を重ねることで認知機能にどのような変化が起こり、日常生活でどういった不都合が生じる可能性があるか、正しい知識を持つておくことが重要です。**

自分の認知機能の低下に自分で気づき認識することは、誰にとっても難しいことです。しかし、認知機能の低下に気付かなかつたり、「そんなはずはない」「自分だけは大丈夫」と根拠のない自信で安心しようとしてしまうと、誤った判断や選択を重ね、大きなミスにより事故に遭ったり資産を失うことにもなりかねません。若いうちから、自分自身の認知機能が低下していくことを正しく理解することは、将来、悪意のある契約などから身を守り、資産を活用しながら望む生活を送ることにつながります。

東京は、日本で最も人口が多く、かつ人口密度が最も高い都道府県です。通勤や観光で訪れる人も多く、あらゆる年代の人たちが集まっており、経験と知識を有する多様な人材が暮らし、働いているということも特徴の一つと言えます。仕事を通して培ったビジネススキルやノウハウを、地域活動やプロボノ活動などを通じて還元し、地域とのつながりをつくることは、現在、そしてリタイア後の人生も豊かにします。

私たちは、誰もが平等に年齢を重ね、いずれは高齢者となります。同じ社会に暮らす高齢者が目の前で困っていたら自分には何ができるのか、この報告書にはヒントとなる考え方が記されています。**まずは、自分の親や身近な高齢者に連絡したり、挨拶をしたりするといったことから、一步踏み出してみましよう。**

認知機能が低下した高齢者も一緒に暮らしているということを意識し、配慮することで、高齢者も若い世代も、**誰にとっても暮らしやすい、全ての人の権利が守られるやさしい東京を実現していきましょう。**